８．さいたま市公共施設マネジメントシンポジウム（平成 25 年度）の概要

一緒に考えてみませんか？
わくわくするこれからの公共施設

さいたま市 公共施設マネジメント シンポジウム

～安心・安全で持続的な施設サービスの充実に向けて～

平成26年1月13日(祝・月)14:00～16:15
場　所：さいたま市産業文化センター１階ホール　　定　員　300名（先着順）・入場無料

プログラム
1 主催者あいさつ／さいたま市長　清水 勇人
2 パネルディスカッション
⑴ 公共施設マネジメント計画・アクションプランの策定に向けて
コーディネーター／根本 祐二 氏
パネリスト／南 学 氏・倉斗 綾子 氏・市民委員
⑵ 与野本町小学校を核とした公共施設の複合化検討ワークショップに参加して
コーディネーター／志村 秀明 氏
パネリスト／ワークショップ参加者
3 座談会
⑴ これからの公共施設の再編と市民合意を考える
根本 祐二 氏・志村 秀明 氏・藤村 龍至 氏・清水 勇人

同時開催 301～302 会議室

大宮東口プロジェクト展示会　13：00～17：30
東洋大学と東京藝術大学の学生が市民との意見交換会4回を経て制作した複合施設の模型を展示します。

ギャラリートーク　16：30～17：30
模型の作製経緯や成果の説明会の開催を予定しています。

根本　祐二 氏
東洋大学
経済学部
教授
PPP 研究センター長

南　学 氏
神奈川大学
人間科学部
教授

倉斗　綾子 氏
千葉工業大学
工学部デザイン科学科
助教

志村　秀明 氏
芝浦工業大学
工学部建築学科
教授

photo: Kenichi Shintsubo

藤村　龍至 氏
東洋大学
理工学部建築学科
専任講師
藤村龍至建築設計事務所
代表

清水　勇人
さいたま市長

・JR 埼京線与野本町駅東口下車徒歩６分
・施設の駐車場は有料です。
駐車場に限りがありますので、公共交通機関をご利用ください。

お問い合わせ
さいたま市行財政改革推進本部
〒330-9588　さいたま市浦和区常盤 6-4-4
TEL：048-829-1108　FAX：048-829-1974
Eメール：gyozai-kaikaku-suishin@city.saitama.lg.jp

このポスター は 5,000 部作成し、1 部当りの印刷費は 19 円です。

主催者あいさつ
～さいたま市の公共施設マネジメントの取組　　さいたま市長　清水勇人

「**公共施設マネジメント**」とは？

→公共施設の**老朽化**の問題を切り抜けるための取組です。

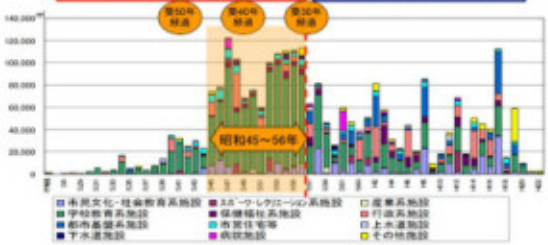
公共施設
ハコモノ（学校、公民館等）
インフラ（道路、橋、水道等）

マネジメント
やりくりする
何とかする

公共施設の老朽化が進んでいます。

［合計　約1,700施設　約260万㎡］　昭和45～56年に集中的に建設（建物の半分以上が30年以上経過）

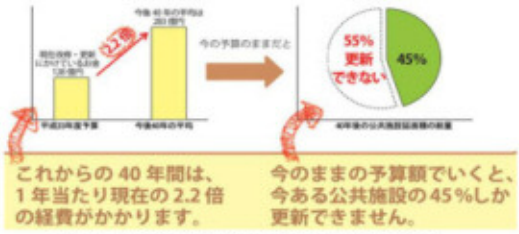
昭和56年以前 134万㎡（52%）　昭和57年以降 124万㎡（48%）



公共施設の老朽化
（膨大な財政負担）

このままでは公共施設を維持・更新できません。

公共施設の改修・更新に要する経費の比較（現状／今後40年の平均）



さいたま市公共施設マネジメント計画

＝

子・孫の世代に
安心・安全な公共施設を
しっかりと引き継ぐ

知恵と工夫　市民と協働

単に廃止・縮小を推進するのではなく、
機能をできるだけ維持しながら
ワクワクする公共施設に

公共施設マネジメント計画の全体目標

□**ハコモノ三原則**
- 新規整備は原則として行わない（総量規制の範囲内で行う）
- 施設の更新（建替）は複合施設とする
- 施設総量（総床面積）を縮減する（60年間で15%程度の縮減が必要）

□**インフラ三原則**
- 現状の投資額（一般財源）を維持する
- ライフサイクルコストを縮減する
- 効率的に新たなニーズに対応する

パネルディスカッション1
～公共施設マネジメント計画アクションプランの策定に向けて

コーディネータ:根本　祐二氏
（東洋大学 教授）

南　学 氏　　倉斗　綾子氏　　田中　薫氏　　福島　まり子氏　　國島　徳正氏

問題提起　根本祐二氏（東洋大学 教授）

- 公共施設の問題は、全国すべての地域に共通の問題である。1970年代をピークに一斉に公共投資が行われたが、ここ10年ほど大幅に削減され、その分を社会保障に回している。
- 「コンクリートから人へ」は民主党のスローガンであったが、民主党だけでなく日本全体が間違っていた。新しいコンクリートは不要でも、今ある公共施設には必要なコンクリートがある。
- 何もしなければいずれ倒壊する。笹子トンネルの事故だけでなく、吊り橋が落ちたり、道路が陥没したりする事故が全国で起きている。学校や庁舎でも、危険な建物はたくさんある。借金をして対応すれば、ただでさえ世界最悪の借金を抱えているのに、さらに大きなツケを子や孫の世代に回すことになる。
- 何もしないとどうなるか。壊れそうになるとサービスを止める。施設が休館になり、橋が使用停止になる。救急車も警察も止まる。怖いまちになり、人が出ていく。実際にそうなっているのがアメリカのデトロイト。財政が破たんし、救急車は1/3が動かず、街灯は1/2が点かず、空き家が7万軒に。1軒3人とすれば約20万人がまちから出て行ったことになる。
- ボーっとしているとこうなってしまう。こうならないようにやりくりする。さいたま市は全国の模範になる自治体といってよい。今日も全国から聴きに来ている。ただし、決めるのは市民のみなさんである。責任を負うのも市民のみなさんである。子や孫にどうつないでいくか、しっかりと考えていただきたい。

[1] 公共施設マネジメント会議に参加して

南氏
- 政令市は規模が大きく、行政区に分かれており、複雑でマネジメントが難しい。全国の市で苦労しているが、大ナタが必要。
- プランニングはできても実践できない場合が多い。できるところから手をつけていくくらいのスピード感が必要。
- 香川県まんのう町では、65施設の保守点検を一括して委託し、コストを15%削減した。さいたま市に当てはめれば、契約をまとめるだけで年間億単位のコストを浮かせられる。

倉斗氏
- 行政はタテワリや異動で、公共施設の資料を揃えるだけでも難しいのが実態。それを成し遂げたことには誇りをもってよい。
- 学校施設が多いが、学校において地域の風通しをよくして、多くの人の中で子どもを育てることを考えるよい機会になる。
- 法的な問題とタテワリの問題は、行政が本気になれば解決できる。セキュリティの問題は、地域が本気になれば解決できる。

田中氏
- 壮大なテーマ。過去から未来にわたる何十年もの時間軸であるタテ軸と、125万都市としてどのようなさいたま市にすべきか、というヨコ軸を常に考えていかなければならない。

福島氏
- 駅伝に当てはめると、何十年もタスキを受け渡していくこと。伴走車に市民が乗って声をかけているのがさいたま市の特徴。市民が同じ方向を向いて応援することが重要。

國島氏
- プランを実務に展開していくことが重要。アクションプランの策定は評価できる。市民としての納得と合意をいかに形成していくか、受益者負担とのバランスをいかに取るか、が重要。

[2] 市民の合意形成に向けて

國島氏
- この先何十年にもわたって取り組んでいくには、市民の約束事として、条例化することも考えられる。受益者負担を考える上で、公民館の有料化はよいテーマになるのではないか。

福島氏
- 市民には、受益者、納税者、経営者など様々な立場がある。立場の異なる市民が集まり、市民が市民に説明し、意見を述べ合う機会を増やすことが合意形成につながるのではないか。

田中氏
- シンポジウムなどを頻繁に行うとともに、マスコミで紹介されると効果が大きい。行政のことを知らない市民が多いので、こうしたテーマも活用してもっと知ってもらう努力をすることが必要。

倉斗氏
- とっつきにくさを乗り越えるには、ワークショップの場で体感してもらうのがいちばんよい。ぜひ見学に行ってみてほしい。
- 市民に将来の市民像を考えてもらいたい。どんな子どもを地域で育てていきたいか、が公共施設の将来像にもつながる。

南氏
- 従来の施設の概念を壊す。何をしたいか、という機能を中心に考えると、従来型の施設はむしろ使いにくい場合がある。最近人気があるのは、従来型の公共施設の枠を超えた複合施設。
- 大きな方向性を共有し、個別には柔軟に変えられるようにする。

根本氏（コーディネータ）
- 市民参加ではなく市民合意。市民が主体的に考えることが重要。本当に必要なのは施設ではなくサービス。寺子屋が世界で注目されている。ハコがなければ何もできない、ということではないことに、気づくかどうかが問われている。

パネルディスカッション2
～与野本町小学校を核とした公共施設の複合化ワークショップに参加して

コーディネータ：志村　秀明氏
（芝浦工業大学 教授）

丸　弘 氏　　若林　祥文氏　　新井　信子氏　　土井　一朗氏

コーディネータから、与野本町小学校におけるワークショップの取組の概要について説明が行われた後、次の2点のテーマについて、ワークショップ参加者によるディスカッションが行われた。

[1] ワークショップの「わくわく」と「とまどい」について

丸氏
- 本町小の卒業生で、140周年実行委員長。
- 商工会議所に長年奉職しているが、「ワークショップ」は初めて。かねてより、市民の合意形成によるまちづくりをやりたいと考えており参加した。何とかよいまちにしていきたい。
- 地区外の公募市民や戦前生まれの人、若い人などが集まっており、出るたびに「わくわく」している。

若林氏
- 昔から住んでおり、地域のことをよく知っている人が参加することによってどのように展開するか、「わくわく」している。
- 一方、根回しなく、ストレートに意見を出し合うことに、多少の「とまどい」を感じている。
- 施設というより、わくわくする「サービス」をどうするのかが課題。

新井氏
- 地元仲町自治会の役員で、本町小の卒業生。
- 「ワークショップ」のことがわからず、初めはとまどったが、回を重ねるごとにだんだんわかってきた。今では、次はどうすればよいか考えたり、友達に話をして意見をもらったりしている。
- みんなの意見をどう取り入れて、どうなっていくか、「わくわく」している。

土井氏
- 30～40代の子育て世代や大先輩の世代など、いろいろな世代の人が集まって意見交換していること自体が複合的。
- 今まで知らなかったさいたま市を知り、勉強になっている。
- 「とまどい」はないが、施設を見学する中で、お年寄りの施設なのにエレベータがないなど、あれ？と思うことはある。
- 我々大人に共通するのは、誰もが必ず子どもだったということ。その子どものための未来の設計に関われることでき、うれしい。

志村氏（コーディネータ）
- いろいろな世代の人、施設の管理者、専門家、市職員等が意見交換をすることが新しい試みであり、「わくわく」になっている。
- デザインゲームによる検討は盛り上がった。このような手法を使って、参加者が活発に意見を出し合うことも、「わくわく」につながっている。

[2] 公共施設について市民が考える取組について

丸氏
- 若い人などからユニークな意見が出され、図面に落としていく中で、思いがけない形ができてくる。
- 行政はタテワリ社会で、このような横軸の話し合いがなされていない。地元の意見を熟知してまとめていくことを期待したい。

若林氏
- おもしろい展開をしているが、それを支えているのが周到な準備。その準備段階から市民が参加してつくり上げていってもよいのではないか。
- プロセスの共有が重要。これまでの成果を、これからどう発展させていくのか、今後の市民の意見の聞き方が課題。

新井氏
- これまでは、何か問題があると「行政が悪い」と片づけてきた。
- 一般市民の意見をよく聞き、専門家、行政が三位一体となって進めることが重要。今回の意見のすべてが取り入れられるとは思わないが、反映されることを期待する。参加してよかった。

土井氏
- 小学校の複合化で最大の課題となるのは「防犯」。防犯カメラの設置、警備員の配置、扉の開閉による安全確保などのアイデアを出し合っている。
- モノを共有化すれば、モノがなくなるなどのトラブルが起こるが、「思いやり」で解決できる。共有によって、相手の気持ちになって考えるようになることに期待している。
- 複合化によって、お年寄りが元気で、子どもが笑顔になればすばらしい。ポジティブな気持ちで考えたい。

志村氏（コーディネータ）
- ワークショップは「とまどい」の連続だが、それが「わくわく」になる。どうまとまるかわからない、というのがワークショップの醍醐味である。6回の会合の他に飲み会も開催して盛り上がった。
- ワークショップは、アイデアを出す、知恵を絞ることがポイント。合意形成においては、市民に能動的・積極的な姿勢が出ることが重要となるが、各参加者がデザインゲームで役割・立場になって自ら手を動かすことによって、そのような姿勢が促された。こうしたことが「わくわく」になっていく。

座談会
～これからの公共施設の再編と市民合意を考える

藤村氏による大宮東口プロジェクトの説明

根本　祐二氏　　志村　秀明氏　　藤村　龍至氏　　清水　勇人

パネルディスカッション1のおさらい　　根本氏

- 公共施設マネジメントは、時間の広がりが壮大で、市民にとってはとっつきにくいテーマである。したがって、市民に認識してもらうこと自体のハードルが高く、市民が理解しやすい環境の整備が重要。
- そこで、マスコミによる報道、条例化を通じた市民・行政・議会を含む理解の促進、まずは行政からタテワリを乗り越えること、受益者負担を市民に語りかけていくこと、などが求められる。

パネルディスカッション2のおさらい　　志村氏

- 与野本町小学校でワークショップを実施し、初めはとまどいがありながらも、それがワクワクに変わってきて、いろいろなアイデアも出てきている。
- さいたま市は市域が広く、地域によって住民の気質も複合施設の状況も異なるが、今後さまざまな地域に展開していけるのではないか、ということが見えてきた。

大宮東口プロジェクトの紹介　　藤村氏

- 建築設計が専門であり、模型を使ってクライアントの要望等を反映させながら設計を進化させていくことに取り組んでいた。この手法が教育に活用できることに気づき、鶴ヶ島市で、市民の意見を聞きながら学生が模型を進化させていくプロジェクトを実施した。
- 大宮駅東口の大宮区役所と大宮小学校が隣接したエリアで、この手法による検討を行うことになり、東洋大学と東京藝術大学の合同プロジェクトとして取り組んだ。
- 毎回予備選抜による9案を学生からプレゼンテーションし、投票によって上位4案に絞り、ワークショップ形式で住民と意見交換を行った。このようなパブリックミーティングを5回実施した。
- パブリックミーティングを繰り返すことで、説明する学生側も、意見・評価する市民側も理解が深まり、模型が進化していった。毎回の投票結果についても、市民／職員、市内／市外など投票者の属性別に集計し、ニーズの把握・反映に活用している。
- 作成した模型は、プロジェクトの発信にも活用できる。中央デパートに展示し、市長を迎えてギャラリートークも実施した。このように、メディアと現場を往復しながら合意形成を図っていくことを、実践的に研究している。
- なお、鶴ヶ島市では、小規模な建物ではあるが、実際の建築における実施につなげるプロジェクトを今年度実施している。

ディスカッション

清水市長

- さいたま市は今後一気に高齢化が進展する。公共施設マネジメントは大きな課題であり、全体の危機意識の共有化は進んできたが、個別施設の扱いになるとまだまだハードルは高い。
- これからが本番になるが、市民にとっては、どうしても公共サービスが減少するイメージがあり、プラスのイメージに転換していくことが重要。機能はできるだけ維持し、今まで以上にワクワクする施設にしていく。そのために市民が主体的に考え、課題を共有化し、発表し合うことで考えが固まっていく。こうしたワークショップ、パブリックミーティングの手法を活用して、市民との合意による計画・実践につなげていきたい。

根本氏

- 「可視化」が重要で、市民アンケートもその一つ。市民が反対するといっても、利用者の意見であり、納税者の意見を聞いていない場合が多い。東洋大学がいくつかの地域で実施した調査によると、増税や利用料の値上げなど新たな負担には反対が多いが、土地の売却や複合化などは7割以上が賛成である。

志村氏

- 市民合意を言い換えると共感。市民が共感できる状況をいかにつくっていくか。市民が自らアイデアを出し、職員も一緒に考える。そのために、行政はオープンにする。そうすればいろいろな人が知恵を出す。それを受け入れていくことが重要。

藤村氏

- オープンにして見えるようにすると、反対が増えるのではないかと心配する向きがあるが、オープンにするほど合意は速い。建築・施設整備を活用し、積極的にオープンにしてもらいたい。

清水市長

- マイナスではなく、いかに前向きに捉え、一層よい施設にしていくか、という発想の転換を大切にしていきたい。
- 市民の意見が形になり、施設のあり方が見えてくると、ワクワク感が生まれる。今後具体的なプロジェクトで合意形成のプロセスを積み上げ、市民に参加してもらいながら進めていきたい。

根本氏

- 「総論賛成、各論反対」という言葉は今後使わないようにすべき。それを乗り越えるのが市長の仕事である。
- 市民は行政の足を引っ張らないこと。茨の道であり、市民の応援が必要。最大の責任者は市民である。

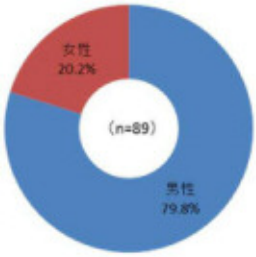
大宮東口プロジェクト展示会・ギャラリートーク （301・302会議室）

さいたま市公共施設マネジメントシンポジウム 来場者アンケート結果まとめ

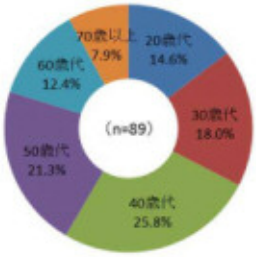
日時：平成26年1月13日（月）14:00～16:15
場所：さいたま市産業文化センター1階ホール
来場者数：約200名

■回答者の属性（アンケート回収総数：89通）

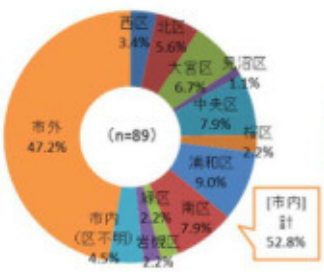
性別



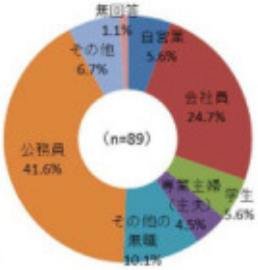
年代



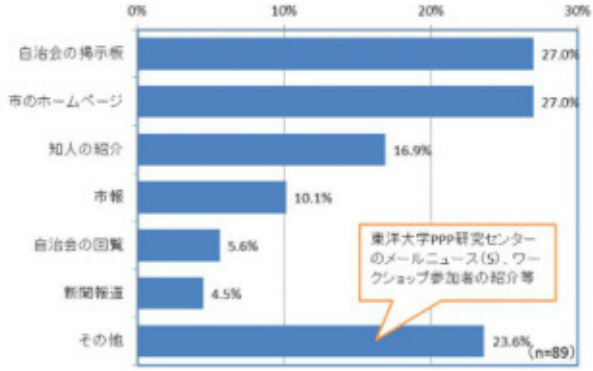
居住地



職業



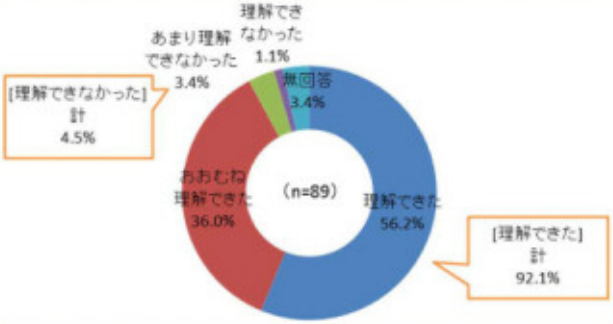
■このシンポジウムを知った情報源



- 性別では男性の参加が多く、約8割を占めた。
- 年代別では、比較的若い世代の参加が多く、20歳代以下から40歳代までで約6割を占めた。
- 居住地別では、市内と市外がおよそ半分ずつとなっている。職業別では「公務員」が約4割と多く、市外の自治体の職員の来場（視察）がかなり見られた。
- 市内の区別では、地元の中央区は7.9%であり、地元のみならず、広く市域全体からの市民の参加が見られる。
- シンポジウムを知った情報源としては、「自治会の掲示板」と「市のホームページ」が多く、約3割を占めた。「その他」としては、東洋大学PPP研究センターのメールニュースを見て知ったという人が何人か見られた。

■プログラムの内容について

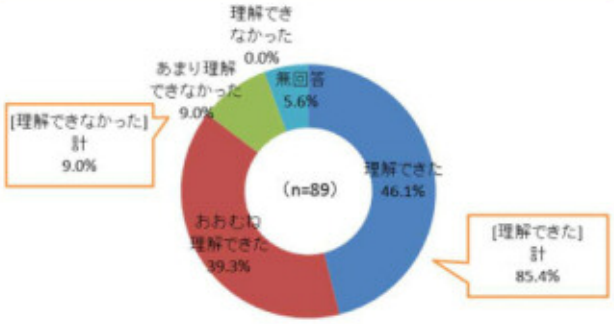
①パネルディスカッション1
～公共施設マネジメント計画・アクションプランの策定に向けて



- 「理解できた」と「おおむね理解できた」をあわせると、92.1%の大部分の参加者から[理解]を得ることができた。

【印象に残った言葉】
- 「**責任は市民**にある」「市民が責任者」
- 「市民参加というより**市民合意**」
- 「**必要なのは施設ではなくサービス**」「機能に注目」
- 「アクションプランの実践が重要」
- 「従来の施設区分、概念にとらわれない」
- 「将来どのような市になってほしいか、市民自身が考える」
- 「複合化の課題解決には、自治体、地域の本気度が試されている」
- 「40年から60年の長丁場」
- 「**市民が市民に説明する**」
- 「公共施設マネジメントは長い年月を走る駅伝」
- 「受益者負担」

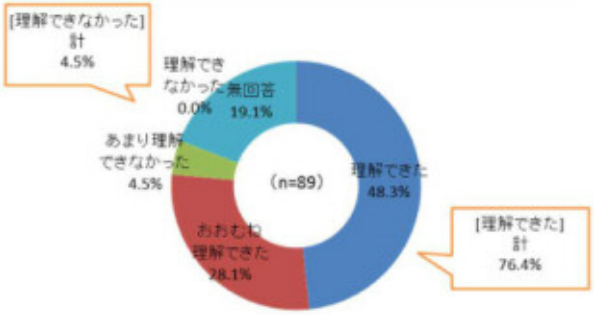
②パネルディスカッション2
～与野本町小学校を核とした公共施設の複合化検討ワークショップに参加して



- 「理解できた」と「おおむね理解できた」をあわせると、85.4%の大部分の参加者から[理解]を得ることができた。

【印象に残った言葉】
- 「**わくわく**」
- 「プラスのイメージで」
- 「発想をポジティブに」
- 「複合化によって今までになかった**新たな価値を付加**する」
- 「答えが決まっていない、戸惑いがわくわくになる」
- 「問題意識を共有し、**アイデアを出し合う**ことが鍵」
- 「一般市民、専門家、行政が三位一体となる」
- 「役割を立場にする」
- 「小学校の複合化においては『防犯』が課題」
- 「思いやり」
- 「メディアを取り込む」

③座談会
～これからの公共施設の再編と市民合意を考える

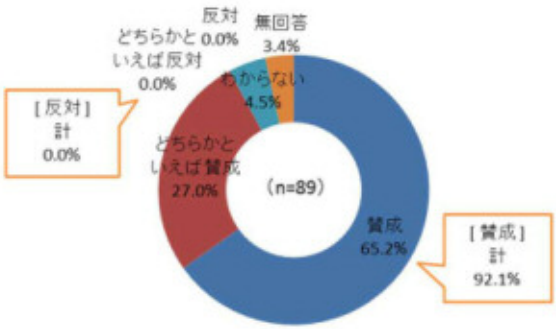


- 「理解できた」と「おおむね理解できた」をあわせると、76.4%の大部分の参加者から[理解]を得ることができた。

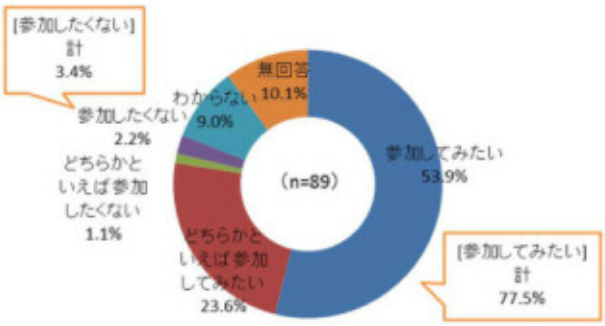
【印象に残った言葉】
- 「決めるのも、責任を持つのも市民」
- 「**可視化**」
- 「**7割の市民は賛成**」
- 「反対派は利用者であり納税者を代表している訳ではない」
- 「行政は**オープン**に」
- 「オープンにするほど合意形成は速い」
- 「場に集めるのが目的ではなく、意見をまとめることが大切」
- 「**寺子屋**が世界で注目されている」「寺子屋でもできる」
- 「『総論賛成、各論反対』という言葉を使うのをやめる」

■さいたま市の「公共施設マネジメント」の取組・考え方等について

さいたま市の「公共施設マネジメント」の取組・考え方について



身近な施設を複合化する場合のワークショップへの参加について



- さいたま市の「公共施設マネジメント」の取組・考え方については、「反対」「どちらかといえば反対」と回答した参加者はなかった。「わからない」「無回答」を除くと、アンケートに回答したすべての参加者が「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答しており、おおむね参加者の理解・共感を得ることができた。
- また、身近な施設を複合化する際に、ワークショップを開催する場合の参加意向については、「参加してみたい」と「どちらかといえば参加してみたい」をあわせると、77.5%の大部分の参加者から[参加の意向]が示された。

【その他、意見・感想等】

複合化の推進について
- 複合化の推進には、各施設の設置目的等の見直しも必要。
- 施設を利用している当事者の意向が軽んじられているように感じた。
- 小中学校の統廃合はどうするのか。
- 利用できなくなる地域、高齢者の多い地域などの豊かな生活をいかに維持していくのか、も大きな問題。
- 交通の便、外国人・障害者のことも考えてもらいたい。
- 複合化は経済性や効率性のみを追求すべきでない。

ワークショップについて
- 「わくわく」が、ワークショップをする楽しさのみに終わらないでほしい、と感じた。
- デザインゲームについては、面白さと共に、しっかりとした吟味が必要。
- ワークショップは特定の参加者の意見が集約されやすくなることに注意が必要。
- 建替え計画のない地域でも実施してもよいのでは？
- ワークショップにぜひ参加してみたい。

合意形成について
- 本当に合意形成できるのか疑問。ワークショップ、シンポジウム、パブリックコメントなど、さまざまな工夫と取組を期待する。
- より多くの市民の参加が望まれる。

取組全般について
- 行政、市民共々気合が入った、よい取組だと思った。
- よい取組だと思うので、ぜひ続けてほしい。
- 市の取組をもっとアピールすべき。
- アクションプラン等をペーパーで配布すべき。
- 他市でも真似ができるように発信してほしい（マニュアル等）。
- さいたま市の取組を応援したい。自分も他の自治体で公共施設を担当しており、負けずにがんばっていきたい。

大宮東口プロジェクトについて
- まさに「わくわく」だなぁと思いました。

シンポジウムの運営について
- 内容が盛りだくさん過ぎる。もう少しテーマを絞った方がよい。
- 時間が少なく、踏み込みが足りなかった。
- 参加した市民の声も聴きたかった。
- もっと時間があってもいいと思ったくらい。大変参考になった。
- とても勉強になった。今日のダイジェストをweb公開等さらに発信してもらいたい。
- 公共施設マネジメントについて知ることができてよかった。
- 参加して有意義だった。定期的に開催してほしい。
- もっとPRして広めてほしい。
- パネリストにもっと若い人を入れた方がよい。
- 今後も同様の集会を行うならば、若者の目を引かせるようなポスターやPRのデザインを検討すべき。